

水稻V溝乾田直播栽培の生育状況（幼穂形成期頃）

■ 耕種概要等

- ① 品 種 まっしぐら
- ② 圃場造成 秋季耕起、代かき
- ③ 種子処理 種子消毒後に浸種、キヒゲン R2 フロアブル塗抹
- ④ 播種機 V溝播種機
- ⑤ 播種日 4月23日
- ⑥ 播種量 乾籾 10kg/10a 程度
- ⑦ 施肥量 窒素成分 10kg/10a 程度（LP100）
- ⑧ 雑草防除 5月25日ノミニー液剤、6月8日アツパレZジャンボ

■ 生育状況



今年は気温が高めに経過していることから、イネの生育も平年より早まっています。農林総合研究所のV溝乾田直播栽培では7月11日に幼穂形成期に達しました。

幼穂形成期頃となる7月10日現在の生育状況は、草丈が60cm程度、㎡当たり茎数が650本程度と良好です。

■ 栽培管理のポイント

今年は播種後の天候が概ね良好であったため、苗立数が十分確保された圃場が多いと思います。

一方、㎡当たりの苗立数が目標苗立数である 100～140 本を大きく上回った場合、生育が過繁茂になることで幼穂形成期頃の葉色が低下し、穂数や一穂粒数が減少することがあります。

この対策として、幼穂形成期に窒素成分で 2kg/10a 程度（硫安などの速効性肥料）の追肥することが有効です。

技術の内容を詳しく知りたい方は以下を参考にしてください。

【令和4年度指導参考資料（一部抜粋）】

津軽地域における「まっしぐら」を用いた水稲乾田直播栽培での追肥効果

- ・ 幼穂形成期の追肥により㎡当たり粒数が増加する。
- ・ 玄米千粒重は並～やや優り、登熟歩合は同程度となる。
- ・ 玄米タンパク質含有率はやや高くなるが、玄米品質は同等となる。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R4-ss1.pdf>